

令和3年10月30日制定

I 留意事項

最初に投稿規定を読み、投稿の手引きに従って投稿論文を作成すること。

II 和文投稿の手引き

1. 投稿論文のフォーマット

投稿論文は、文書作成ソフトにより A4 判用紙（縦置き横書き）に作成する。本文は、44 字×43 行を以て 1 ページとする。文字は MS 明朝、フォントの大きさは 10.5 ポイントとする。本文はひらがな現代かな遣いとする。外国語をかな書きにする場合は、カタカナとする。なお、本文には、下部中央にページ番号を、各ページの左側に行番号（ページごとに振り直し）をつける。

2. 投稿論文の規定ページ数

総説、原著論文（実践研究を含む）、事例研究、研究資料、実践報告の投稿論文は、本文、注、文献、図表等（欧文抄録とその和訳を除く）を含めて 16 ページ以内とする。

3. 本文

1) 句読点は、「、」「。」とする。数字はアラビア数字で半角とする。

2) 見出し番号は、「1.、2.」、「1.1.、1.2.」、「1.1.1.、1.1.2.」、「(1)、(2)」の順番とする。

3) 引用

本文中に文献を引用する場合は、原則として、著者名、発行年、引用ページ、あるいは、参照ページで示す。

(1) 本文中で文献の一部を直接引用する場合は、引用した文章を、和文は「 」で、英文は“ ”でくくり、その後に文献情報を書く。

例) 「……………」(高橋, 1989, pp. 55-56)
“……………”(Siedentop, 1994, p. 20)

(2) 参照ページが複数ある場合には、括弧内の参照ページを(,)でつなぐ、ただし、参照しているページが限定できない場合には、ページを省略する。

例) 池田(2009, p. 29, pp. 32-33)によれば、……
Metzler(2000)は、……

(3) 著者が2名の場合は、両著者を和文は「・」で、英文は“and”で結ぶ。

例) 山下・加藤(2000)は、……
Glover and Midura(1992, pp. 16-18)には、……

(4) 著者が3名以上の場合は、筆頭著者の姓の後に、和文は「ほか」、英文は“et al.”を用いる。

例) 「……………」(岡出ほか, 2000, p. 15)
Penney et al. (2005, p. 60)は、……

(5) 複数の文献が連続する場合はセミコロン(;)でつなぎ、筆頭著者のアルファベット順に列挙する。

例) ……(永島, 1991; 高田ほか, 1991; 友添, 2009)
体育授業において(Rink, 1996; Shield and Bredemeier, 1995; Siedentop et al., 1991)

(6) 同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ(,)でつなく。また、同一著者の同一年に発行された複数の論文は、発行年の後に a, b, c・・・を付けて区別する。

例) 小林 (1988, 2000) は、・・・
加藤 (2000a, 2000b, 2008) の一連の研究では、・・・

(7) 翻訳書の著者は、カタカナ表記とする。

例) バーロー・ハーセン (1988) は、・・・
・・・(ジョンソンほか, 2010) によれば,

(8) WEB サイト (ホームページ), あるいは, WEB サイトに掲載されている PDF 等を引用文献とする場合は, (著者名, 発行年) と表記する。発行年やファイル名が特定できない場合は, (著者名, online) と表記する。同一著者の同一年に発行された複数の WEB サイトに掲載された資料を参考にする場合は, 発行年の後ろに a, b, c・・・とつけて区別する。また, 発行年が特定できない場合は (著者名, online1), (著者名, online2) と表記する。

例) 文部科学省 (2017) は、・・・
・・・と報告されている (スポーツ庁, online1)。また、・・・と述べられている (スポーツ庁, online2)。

4) 注

注をつける場合は、本文中の該当箇所の右肩に、^{注1)}、^{注2)} のように通し番号をつけ、本文と文献表の間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は「注」とする。

4. 図表, 写真等

1) 図表, 写真等は, 原則として, 刷り上がり (余白サイズ上 35 mm, 下 18 mm, 左右 17 mm の B5 版) と同じ大きさになるように白黒で作成する。フォントの大きさは, 和文の場合, MS 明朝 8 ポイント, 英文の場合, センチュリー 9 ポイントを目安とする。なお, 図表, 写真等は, 刷り上がり (余白サイズ上 35 mm, 下 18 mm, 左右 17 mm の B5 版) と同じ大きさの図表, 写真等を B5 版にまとめた場合, 4 ページ以内とする。図表, 写真等が見にくい場合や図表の文字が判読しにくい場合は, 原稿を受け付けないことがある。

2) 図表, 写真等は, それぞれに必ず通し番号とタイトルを入れ, 本文とは別に番号順に一括する。1 ページにつき 1 つの図ないしは表とする。図表の挿入箇所には, それぞれの番号を本文中に朱書きする。

5. 文献表

文献は, 原則として, 本文最後にファースト・オーサーの ABC 順で記す。ファースト・オーサーが同一著者の場合, セカンド・オーサーの ABC 順となる。書誌データには通常, 著者名・発行年 (西暦で半角)・タイトル [題名・書名]・出版社・ページ (半角) 等の情報を含むものとする。また, 同一著者, 同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後に a, b, c・・・をつける。ただし, この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。文献の記載は以下の通りとする。

1) 定期刊行物の場合 著者名 (発行年) 論文名. 誌名, 巻 (号) : ページ.

(1) 論文名; 論文名の最後にピリオド (.) を打つ。欧文では, 題目の最初の文字だけを大文字にする。

(2) 誌名; 原則としてその雑誌に指定された略記法, または広く慣用的に用いられている略記法に伴う。それ以外は省略しない。

(3) 巻号およびページ; 巻数の後にコロン (:) をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン (-) で結び, 最後にピリオド (.) を打つ。同一巻が通しページとなっていない場合には, 号数を () で巻数の後に示す。数字は半角とする。

- 例) 加藤謙一・宮丸凱史 (2006) 一般高校生の疾走動作の特徴. 体育学研究, 51(2):165-175.
Dyson, B. (2002) The implementation of cooperative learning in an elementary physical education program. J. Teach. Phys. Educ., 22(1):69-85.

2) 単行本の場合

著者名 (発行年) 書名 (版数, ただし初版は省略). 出版社. とする. また, 編集 (監修) 書の場合には, 編, 監あるいは編著と表記する. 英文では編集者が一人の場合は (Ed.), 複数の場合は (Eds.) をつける.

- 例) 山口裕幸 (2008) チームワークの心理学: よりよい集団づくりをめざして. サイエンス社.
出原泰明編 (1991) 「みんながうまくなること」を教える体育. 大修館書店.
Siedentop, D. (1994) Sport education: Quality PE through positive sport experiences. Human Kinetics.
Anderson, L. W., Krathwohl, D. R., Airasian, P. W., Cruikshank, K. A., Mayer, R. E., Pintrich, P. R., Raths, J., and Wittrock, M. C. (Eds.) (2001) A taxonomy for learning, teaching, and assessing: A revision of Bloom's taxonomy of educational objectives (Abridged Edition). Longman.

3) 単行本の一部の論文や章の場合

著者, 論文名 (章の題名) の後に編集 (監修) 者名と「編」, 「監」, 「編集」等をつける. 英文の場合には, “In” : をつけたあと編集 (監修) 者名と (Ed.), または (Eds.) をつける.

- 例) 水野忠文 (1980) スポーツとは何か. 朝比奈一男・水野忠文・岸野雄三編, スポーツの科学的原理 (3版). 大修館書店. pp.1-76.
Hay, J.G. (1993) Track and field running. In: Bolen, T. and Ricker, E. (Eds.) The biomechanics of sports techniques, fourth edition. Prentice-Hall, pp.396-411

4) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し, その後にコロン (:) をつけて訳者の姓名を記入する. 訳者が3人以上の場合は, 「: …ほか訳」と省略して筆頭訳者だけを記入する. 欧文の翻訳書の場合, 原著の書誌データは投稿者が必要と判断した場合に最後に 〈 〉 内に付記する.

- 例) シーデントップ: 高橋健夫訳 (1981) 楽しい体育の創造. 大修館書店. 〈Siedentop, D. (1976) Physical education: Introductory analysis, second edition. Wm. C. Brown Company Publishers. 〉
ピアジェ・イネルデ: 波多野完治ほか訳 (1969) 新しい児童心理学. 白水社.

5) ウェブサイトの場合

著者名 (発行年または online) ウェブページの題目, ウェブサイトの名称, URL, (参照日) の順とする.

- 例) 文部科学省 (2016) 平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について. https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/01/04/1412082-26.pdf, (参照日2021年10月1日).
FIFA (online) FIFA U-20 world cup Poland 2019. <https://www.fifa.com/u20worldcup/news/lee-lunin-headline-award-winners-at-poland-2019>, (accessed 2021-07-01).

6. 謝辞, 付記等

謝辞および付記等は, 投稿時の原稿に入れず, 原稿「受理」後に書き加えることとする.

7. 修正論文の提出

審査員の全ての指摘に対して、審査員ごとに修正回答書を作成する。また、修正論文の修正箇所は、赤字で表記する。

Ⅲ 欧文投稿の手引き

1. 欧文原稿のフォーマット

投稿論文は、文書作成ソフトにより A4 判用紙（縦置き横書き）に作成する。半角文字で 88 字×43 行（全角設定で 44 字×43 行）を以て 1 ページとする。文字はセンチュリー、フォントの大きさは 10.5 ポイントとする。なお、本文には、下部中央にページ番号を、各ページの左側に行番号（ページごとに振り直し）をつける。

2. 投稿論文の規定ページ数

総説、原著論文（実践研究を含む）、事例研究、研究資料、実践報告の投稿論文は、本文、注、文献、図表等を含めて 16 ページ以内とする。

3. 本文

- 1) 句読点は、「,」「.」とする。数字はアラビア数字で半角とする。
- 2) 見出し番号は、「1.、2.」、「1.1.、1.2.」、「1.1.1.、1.1.2.」、「(1)、(2)」の順番とする。
- 3) 引用
和文投稿の手引きに準じる。

4) 注

注をつける場合は、本文中の該当箇所の右肩に、*¹⁾、*²⁾ のように通し番号をつけ、本文と文献表の間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は“Note”とする。

4. 図表、写真等

- 1) 図表、写真等は、原則として、刷り上がり（余白サイズ上 35 mm、下 18 mm、左右 17 mm の B5 版）と同じ大きさになるように白黒で作成する。フォントの大きさは、センチュリー 9 ポイントを目安とする。なお、図表、写真等は、刷り上がり（余白サイズ上 35 mm、下 18 mm、左右 17 mm の B5 版）と同じ大きさの図表、写真等を B5 版にまとめた場合、4 ページ以内とする。図表、写真等が見にくい場合や図表の文字が判読しにくい場合は、原稿を受け付けないことがある。
- 2) 図表、写真等は、それぞれに必ず通し番号とタイトルを入れ、本文とは別に番号順に一括する。1 ページにつき 1 つの図ないしは表とする。図表の挿入箇所には、それぞれの番号を本文中に朱書きする。

5. 文献表

和文投稿の手引きに準じる。

6. 謝辞、付記等

謝辞および付記等は、投稿時の原稿に入れず、原稿「受理」後に書き加えることとする。

7. 修正論文の提出

審査員の全ての指摘に対して、審査員ごとに修正回答書を作成する。また、修正論文の修正箇所は、赤字で表記する。